

平成30年度 信学会東堀保育園 「自己評価および学校〔園〕関係者評価」

1. 園の教育目標

園の中心テーマ『魅力あふれ、絆が深まる』こども園

・信学会の教育方針「礼節・忍耐・誠実」を念頭に置き、「ハイ、できた、ありがとう」を言える子を目指している。

2. 本年度の重点目標

- ・思いやりのある、心を大切に活動
- ・よく考え、豊かに創造し行動できる活動
- ・生活と関わらせた食育の活動

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	B
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	A
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	B
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	A
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	B
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	A
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	B
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	A
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	B
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	B
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	A

4. 学校関係者評価委員(モニター)からの評価

- ・新しい園ができて、それも大きな規模でのスタートでしたが、園長先生の積極的な行動や新しい試みに子どもたちがキラキラ輝いていて、まとまっている姿が印象的で素晴らしいパワーを感じました。何かのきっかけで、良い習慣作り、集団・仲間づくりにつながるものだと思います。
- ・園舎がとても綺麗で、掃除が行き届き先生方の対応がすばらしいと思います。
- ・子どもたちが大変明るく、活気のある様子に驚いた。
- ・始まった当初はよくわかっていなかったのですが、ラーニングストーリーの取組への認識がとても深まりました。「きずな」に代わる利用法もとてもいいと思います。今後の園や先生とのかかわりがとても楽しみになりましたし、親として、家庭教育の在り方も考え直すというか、自省すべきことが多々あると考えさせられました。
- ・園長先生から直接、園での取り組みやこれからの子どもに求められることなどを聞くことができ、大変勉強になるよい機会でした。主体的であるという保育を直接目にし、「わくわくの日」などの活動を知ると、家庭での子どもの見方もかわってくるような気がしました。
- ・公立から私立へのゼロからの出発であったかと思うのですが、園長先生のリーダーシップの元、子どもたちがしっかりと園の目指す姿に向かって伸びている姿に触れて、心から素晴らしいなと思いました。安心・安全の確保、配慮もしっかりとされていて、学ぶことが多くありました。若い先生が多いということでしたが、指導の下また、何よりも子どもたちの成長を喜ぶ思い、やりがいを持って毎日の職務を果たしていることにも感心しました。

- ・信学会東堀保育園の目指す目標である「魅力あふれ、絆が深まる」こども園に向けて、園長先生はじめ、先生方の熱心なご指導、取り組みがなされていることに感心しました。
- ・発達段階も違う子どもたちですが、園の方針を貫いてほしいと思います。
- ・私たち世代のもつ古い考えと、これからの新しい方針とのギャップをどう埋めていくかが難しいと、アンケートを見て思いました。「教育面・運動面が少ない、宿題がほしい」などテレビで見る、跳び箱何段、暗算いくつなど、そういうイメージをもって園に入れる親もいそうです。入園説明会などで、情報発信してほしい。
- ・保護者評価の中に、「先生との信頼関係がしっかりしている」という記述があり、先生方の日々の姿が評価されて嬉しいですね。今後も「どの子ども大切に」の気持ちで宜しく願いいたします。
- ・「地域における保護者の実情や子育て支援ニーズを把握してる」のA評価がさらに増えることを期待したい。
- ・園児が増えること、希望者が多くいることは喜ばしいことですが、増えるがために活動する空間が狭くなるというのが苦しいところですね。
- ・園の方針を具体的な子どもの姿で発信し、保護者や地域の皆様にご理解いただける努力を続けていただきたい。
- ・「遊びを通して子どもに育っている力は、計り知れないものがある」と思いますが、具体的に伝えてもらわないとなかなかわかりづらいのではないかと思います。

5. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

- ・「教育課程・指導」については、初年度ということもあり、周知するまでに時間がかかった。特に、後半の新しい認定こども園教育・保育要領に基づいた「主体的・対話的で深い学び」に関わる方向への取組は、教職員への周知がやっとの状況であった。今後、保護者や地域等への周知を図りたい。
- ・一年間「魅力あふれ、絆が深まるこども園」のテーマ実現に向けて全教職員が努力した。特に、「キラキラコーナー」・「わくわくの日」等の取組は、園児や保護者にとって魅力あり楽しい取組として評価が高い。今後もさらに工夫改善し、テーマ実現に向けて取り組みたい。
- ・新しい認定こども園教育・保育要領に基づいた、「ラーニングストーリー（園児理解）」の取組は、11月以降本格的に行った。約2週に一回のペースで行った、職員研修でのグループ別研修の効果が発揮され、短期間でおよそ、ねらいに沿ったラーニングストーリーが実現した。これにより、教職員の「意識改革（園児の良さが理解できる）」が図られ、それによって、園児の「自己肯定感の向上」が進み、園全体が明るく活気に満ちてきた。また、喧嘩や掴み合い等がほとんど少なくなり解決されるようになった。園児の自己肯定感の向上がこれからの園運営に重要であると考えます。また、この姿を保護者・地域に発信していく努力をしたい。
- ・運動会や発表会（音楽会）等の行事では、日常の活動を中心として、かけっこ等を種目にした。保護者からは、「子どもらしくて良かった」とする感想が多いと感じたが、「今までのように、旧東堀保育園の内容で行ってほしかった。（発表会も同様）」との声もあった。今後、日常活動での技能向上や行事に向けた、内容や練習を検討して要望等に応じたい。
- ・活動や遊びに関わっては、園庭での自由遊びが広がりを見せている。具体的には、砂場、遊具以外に、タイヤ・ブロック・丸太等の遊びにつながる素材が子どもの遊び充実の鍵となっている。今後も、園庭に備える素材や道具類等の充実を図りたい。また、「わくわくの日」等での異年齢交流が機会となって、異年齢による遊びが自然に行われている。これは本園の特色の一つと言える。異年齢交流によって、「相手意識や思いやり」等の効果も大きい。今後も更なる充実を図りたい。
- ・英語、体育等の専科活動は、子どもたちに人気であり保護者にも好評であった。また、音楽では事務局の講師（古川先生）が入ってくださり、園歌の作成や鼓笛隊の指導等の効果が大きかった。今後も事務局にお願いして音楽の充実を図りたい。
- ・食育に関わっては、園の畑「にじいろ畑」で、13種類の野菜等を栽培し、園児全員が関わっての取組となった。職員や地域の支援者からの日常的な管理が行き届き、品質も量も十分確保され、園児の観察→試食や収穫野菜で給食も行われて、「大切に育てて頂く」を実感し始めている、この取組と体験を今後も続け、日常生活と関連付けた食育をさらに推進したい。
- ・課題は、地域における保護者の実情や、子育てニーズに応じた園運営である。園運営が精一杯の面もあり、今後は地域との関係づくりや実態に応じた運営や「子育て支援」である。今後、段々に計画実施を行いたい。
- ・最後に、本年度開園し、新しい教職員が総力をもって行った園運営であるが、深澤主任を中心とした「学びあう組織」が実現している事が大きな喜びである。勤務時間についても、超過勤務がほとんどなく、勤務時間内での工夫改善が園全体の活力と子どもの育ちの原動力となっている。若くて初任の保育教諭も多く、課題もあるが、日常的な「自己の保育の見直しと改善」が機能しているので、課題解決が図られる方向にある。今後も、本園の「強み」を生かした園運営を心掛けたい。